



みつばちがいっぱい！！
なんちゃって農業女子の「養蜂体験」



- ✦ 天国への階段 9 変な同居人
- ✦ ハードくソフト
サービス提供される側の満足度にこだわりたい
- ✦ 作らずにはいられない
「遅いパソコンがガマンできない話」
- ✦ なんちゃって農業女子(笑) 14
- ✦ 秀作エッセイ 仕事
- ✦ イベント紹介
- ✦ 今月の五行歌
- ✦ わたしの闘病日記「身体中で一番新しい関節に感謝」(9)
- ✦ 編集局より/会計報告

「LIP編集局」

<https://love-dugong.net/lip/>

連絡先

メールアドレス: lip@love-dugong.net

TEL: 070-5653-6913 (18時以降)



「天国への階段」 九

鶴島緋沙子

変な同居人

早朝五時半、二階の部屋のドアが開く音。続いてトイレの水を流す音。次は、ちよっと左右ちぐはぐに、リズムを奏でながら階段を下りる足音。

この家の起床時の風景ならぬ「音景」だ。ベッドに身を横たえ、まだ半分夢見心地のまま、操作可能なりモコンでテレビのスイッチを入れるこの家の女主人の耳に、早朝のニュースを告げる元気なアナウンサーの声。今年十月、米寿を迎える彼女が三十分遅れの午前六時に、むっくり体を起こす。

おいおい。もうちよっと寝させておいておくれよ！と叫んだとしても、そんな声には聞く耳持たぬ同居人。やがて階下から響くベートーヴェンの交響曲・運命。重々しくも華々しい第一楽章。それに合わせるかのようにキッチンで包丁を扱う軽快な音。三十年来変わらぬこの家の早朝恒例、同居人によるジュース作りだ。

中身の主役は、林檎とブロッコリー。それに鯉節の粉に胡麻ときな粉。更にヨーグルトと牛乳を加えて、ミキサーのスイッチオン。これが、この家のプロローグサウンドズとでも

言うべきものか。その同居人の朝の仕事が寝ぼけ眼の女主人に喝！

やがて満足気な顔のシェフが、がつつりした焼き物のカップ二個にジュースを入れ分け、それを飲み干したところから二人の「今日」が始まる。

毎週、月曜日、火曜日、金曜日は、同居人の出勤日。

朝、七時十五分かっきり家を出る。ということは、七時にトイレを済ませ、服装を整え、靴を履き、玄関の扉の前に立ち、リュックを背負うという、正に厳しいスタート準備なのだ。そんな同居人を見ながら女主人は、テレビ画面に出る時刻を同居人に知らせる為、居間と玄関を慌ただしく往復することになる。「よし！ ゴー！」

女主人の声が終わるや否や、ぱたん、と扉の閉まる音。

外泊しない限り、変る事のない女主人と同居人の日常であり、一日たりとも狂わない朝の音景である。

その拘りの強さ。一日の時間の配分の正確さ。

このモーニングサウンドズの恩恵と被害を喜ぶべきか、憂うべきか。

ちなみにこの変な同居人、二歳の時に医者

から「自閉症」と名付けられて六十年。

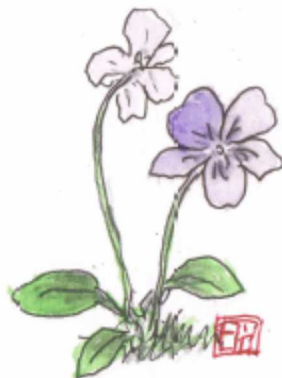
現在八十七歳の女主人から

「変な同居人」

と言われ、毎日いじられている。

人生いろいろ。

二人に乾杯！



鶴島緋沙子さんは、山田洋次監督の映画「学校III」の原作となった「トミーの夕陽」(つげ書房新社刊)などの作品で知られる枚方市在住の作家。「大阪府高齢者大学校エッセー文学科」「大阪府民カレッジひらかた校」等講師。『トミーの夕陽』がまた昇る『私の中の瀬戸内寂聴』『もぐらの目』など。「自閉症」の息子さんの母親であり、「枚方自閉症児(者)親の会」の元代表。

STEMz マンガ文庫 蔵書紹介 (番外編)

ハードくソフト

形のあるものや実績のための生産活動からの脱却 サービス提供される側の満足度にこだわりたい

「つくってみた」「プロジェクトを立ち上げた」ゼロからイチにする作業は勢いもあってなんかお祭り騒ぎで楽しいものですよね。

学校の文化祭も、できるかも、できないかもを細かく考えずにあれこれ自由にアイデアを出し合っている時が一番楽しい。

なんとなく、つくったらなんとかなるだろう。企画したら人が集まるだろう。そんな軽い気持ちでもまず始めることに意味がある。やってみないといいか悪いかも分からないからメンバーを集めてみた…！！！！

世の中、案外どうでもいいことに予算がついて、大した成果もないのにお金がばらまかれているよなと感じています。

行政もお金を出す以上、その使われ方にもっと注力してもいいのではないのでしょうか。

領収書や活動報告だけで実績を計らず、活動に至るまでの過程や、運営状況、参加者の様子など、報告書以外から情報を収集する仕組みが必要だと思っています。

よくよく注意深く見てみると、ほとんど全てのことに当てはまるような気がするのです。

教育現場、福祉事業、公共施設などのハコモノの運営など、公共サービス全般にいえそうです。

なぜつくるだけで、サービス提供だけが評価されるのか。物事は、その日その場所にイベントやモノがあること、スタッフがいることだけが評価ポイントであるのは変だと思うのです。

中身を評価しやすいように細かいルールや規定、目標値を設けること。報告者が不正をできないように目を光らせることに注力する以上に、現場を見て、参加者やそのサービスの利用者に定期的に話を聞いて

たり、変化をウォッチすることが何よりも不正の抑止力になるはずで。

そうすることで報告者側の負担も減り、いらぬ報告をするための書類作業がなくなることで、よりサービスを受ける側が利用しやすいサービスや企画にしていく余力が生まれると思います。

参加者、利用者の声が反映されるとあれば、より彼らの満足度を意識したサービスを提供するようになっていくと思うんです。選ばれる側にある福祉サービスはこれには該当しなくなってきましたが、選ばれることなく利用される教育現場や行政主催の催し物、市民団体への助成金、補助金活動にはもっとサービスを受ける側の視点を取り入れて欲しいと切に思います。

行政側も報告書に目を通す時間を減らしてもっと現場を、参加者や利用者を見て欲しい。

市民として行政サービスを受ける側として、市民活動を通して市民と関わる団体スタッフとして、福祉事業所で利用者にサービスを提供する職員として、公共サービスのお金の使われ方に大いに疑問を感じています。

(みんなでつくる学童STEMs そふえ)

[STEMz マンガ文庫]で検索！



シリーズ『作らずにはいられない』(21)

遅いパソコンがガマンできなりの話

わたしは、「オレが就職したときにはパソコン自体世の中に存在しなかった」などと自慢とも自虐とも言えない発言をして職場の若者たちに敬遠されてる“じーさん”サラリーマンです。

職場でそんなころからパソコンに付き合ってきたため、イヤでもいろいろな不具合を見てきました。不調な機械を見ると、直さなくては気が済まないわたしには不具合対処のノウハウが蓄積されます。いつしか、パソコンが不調になると、わたしのところに持ち込まれることも多くなり、ますます不具合対処のノウハウが蓄積されるという悪循環（好循環？）が生まれ、マニアっぽくなってしまいました。

「こんな不具合直した」みたいな投稿をSNSに書いたりしているうちに、知り合いや親戚からもパソコンが遅すぎるので見てほしい、という依頼が来たりして、預かってチェックするということを繰り返してきました。

たくさんの不具合を見てきたわたしが今、声を大にして言いたいのは、WindowsUpdateという仕組みが、マイクロソフトの意図通りには機能していない、ということです。

WindowsUpdateっていうのは、セキュリティ上の理由や不具合対応のために行われる更新作業で、たいてい月に1回自動的に行われます。

でも、わたしが見たほとんどのパソコンで、WindowsUpdateが完了しておらず、「ダウンロード中」「インストール中」のように作業中のままでした。パソコンはこの更新作業に機能の大半を割いているため、ユーザーがほんとうにやり

たい作業に手が回らず、いつまでたってもエクセルが開かないとか、ウェブサイトが見れないなどという目に合うわけです。

おそらく、マイクロソフトの意図としては、パソコンは一日の大半は電源が入り、ネットにもつながっている状態を想定して設計しているんだと思います。

ところが、あまり頻繁に使わないユーザーは、週に一回とか月に一回パソコンに電源を入れ、ちょこっと作業をしてすぐに電源を落とす、という使い方をします。そうすると、本来、舞台裏でこそっと行う予定のWindowsUpdateが終わらないうちに電源が切れ、次にスイッチが入れられたときにまたその続きの更新が始まり、それも終わらないうちにまた電源が切られる、という状態に陥るのです。

これが、わたしが預かったパソコンでいつもお目にかかる状態です。この症状を、わたしは「ウィンドウズ更新をこじらせている」と呼んでいます。

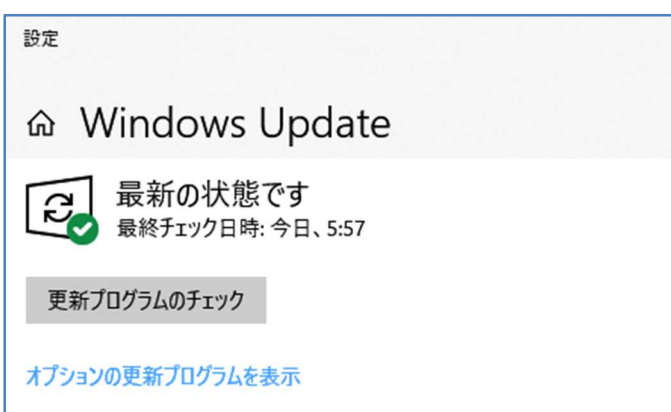
こんな状態で、本来の実力を発揮できないまま、遅い遅いと言われたらパソコンがかわいそう。本来の性能を発揮させて、寿命をまっとうさせてあげるにはどうすれば良いか。

わたしが実践しているのは、ハードディスクをSSDに取り換えるという処置です。ハードディスクは、円盤状の記録ディスクがクルクル回って、その上にデータが記録されるものです。SSDは記憶素子のかたまりで、円盤がない（可動部がない）記録装置です。回るところがないので、速度が格段に速いわけです。

ウィンドウズが更新をこじらせるのは、更新に時間がかかるからです。SSDに交換すると、更新速度も劇的にあがるため、こじらせ率が減る、というわけです。

困ってる方は相談に乗ります♪

(LIP編集局 わたなべ)



No.14

なんちゃって農業女子(笑)

この投稿も何だかんだと他愛もないお話を書き続けているうちに、気が付いたら先月号から2年目に突入!!パチパチパチ……だいたい何をやっても飽き性で、三日坊主の私が、こうして農業的??な文章を毎月書かせて頂けていることに感謝です。(笑)

今回は、別に農業に飽きた訳ではないのですが……先日「養蜂体験」をしてきたので、その報告を書かせていただきますね。



以前にも書きましたが、私は2018年8月~1年間社会人向け有機農業学校「スモールファーマーズカレッジ」にて学び実習し今に至るのですが、当時の同期の仲間と「豊能高山の耕作放棄地」を借りて野菜作りをしたり、同期のイチゴ農園に見学に行ったり etc.卒業後も繋がっていて、その仲間と先日、京丹波町で週末養蜂家をされている方々を訪問して養蜂体験をしてきました。これが実に楽しかったので、今回ふんだんに写真を使ってご報告致します。



京都府船井郡京丹波町長瀬川谷という山間の溪流のある長閑な田舎で青年二人、週末通いで養蜂をされておられます。住民はほとんど使用していない「公民館」が彼らの活動場所で、まずそこで「蜂蜜の味見」そして「蜜蜂の生態」についての勉強（と言っても絵本の読み聞かせで説明下さいました）。

蜂蜜と一言で言っても、採取した場所・季節・花 etc.条件が違えば味や色や香りが全く異なること、蜂蜜は本来蜂が生きていく為や子育ての為にせっせと集めている大切な栄養源であることを知り、スプーン1杯でもめちゃう貴重なものだと思えました。味見した蜂蜜は全部で30種類くらい。私が美味しいと思ったのは……おっと味見の報告で終わってまう。

実際に巣箱を触らせてもらい、女王蜂を確認したり、巣箱の様子をチェックしたりと普段できない体験がたくさん出来ました。興味ある方は「Berich 遊びに来れるハチミツ屋」888berich888で、ぜひ検索してみてください。

(文・写真 へそくん)



仕事

伊藤 美紀子

パートで働くことになった。

緩和ケアのある高齢者住宅である。

働いてみて徐々に分かってきたことであるが、創立三年の間に職員が大きくなり入れ替わり、最初からの職員は殆どいないとの事。

人生の週末をストレスなく快適に暮らせるという事は誰もが願うことであろう。高齢者住宅では、入居者のそんな想いを背負って、たくさんの若者が働いている。

子育てなど、自身の生活に追われながらも懸命に働いている若者が、時間をオーバーしても記録を携帯アプリに打ち込んで帰る。

しかし、人間相手の仕事はストレスを感じないわけがない。入居者のみならず、職員同士の付き合い方にも気を使う。

私の先輩は若い人ばかり。その人たちの洗礼を受けることは覚悟していた筈だったが、私は酸いも甘いも経験してきた高齢者だから、多少のことはかわせるだろうと密かに思っていた。

しかし、十日目にして心が折れた。

食事を間違えて渡してしまった。普通食と刻み食だったし、既にお箸を付けられてから発見された間違いだった。

その時に聞いた先輩の声が何度も心に蘇る。

「信じられへん。馬鹿じゃないの」

その通りである。

自分でもそう思う。やってしまったミスは取り返しがつかない。申し訳ない気持ちで只々謝るしかない。

反省の気持ちが増して、そこまで言わなくてもという気持ちが大きいのは情けない。

身体の疲れは一晩寝れば回復するが、心が折れると数日落ち込み、トラウマになり、名前を呼ばれるとビクツとする。

つつい家族や友人に愚痴ってしまった。それが良かった。

笑いの中に励ましがああり、マイナス思考を吹き飛ばしてくれた。その後の出勤日に心新たに出勤すると、その日のリーダーは優しい思いやりがある人で、仕事の指示の合間に、水分を取るようにとか、大丈夫かなどと声を掛けて下さって伸び伸びと働くことができた。入浴介助の際、湯船に浸かっている時の入居者さんの幸せそうな顔は大きな励みになる。恥ずかしながらポカミスはたくさんある。日々学びとして、その繰り返しが少しずつ力となつている気がするが、まだまだ覚えきれないことは多い。

挫けそうだと予感できた就職だったので、身内や友人知人、あらゆる人に就職することを伝えておいた。それが励みになり、頑張れている。

滴り落ちる汗を拭きながら、入居者さんの

笑顔に励まされて、結構やりがいを感じつつある。

(秀作俳句)

病癒え
くぐる梅林
空碧く

甘き香りの
梅花の下に
遊ぶ子ら

エッセイ・俳句とも、「大阪府高齢者大学」文章講座卒業生でつくろ「鶴島学校」の伊藤 美紀子さんの作品です。講師をつとめる鶴島緋沙子さんの推奨作品。

LIPが選ぶ 今月の五行歌

霞か雲か

さなき

山の中腹

そこだけ明る

霊園に咲く

ソメイヨシノ

ワイワイ・ガヤガヤ

ふわり

子ビツ子大はしやぎ

堤防の土手を

段ボールで滑りっこ

あゝ春休み

カラスノエンドウ

桑本明枝

ぴーって吹いたら

六十年昔に連れてってくれるよう

みっちゃん、ちいちゃん

元気かな

五行歌(ごぎょうか)とは……五行で書く短い詩。字数や季語などの制限はなく、自分のおもったことと、感じたことを、そのまま言葉にして書きます。枚方では、五行歌ひらかた歌会が、8月を除き月一度歌会を行っています。

(連絡先: akkie.toyotaka@gmail.com)

または 090-5893-5635・豊高)

イベント・サークル・ボランティア情報

【枚方自閉症児(者)親の会】

お母さん、一人で悩んでいませんか？ 障害があってもなくても、みんなと一緒に成長していきましょう。

おじいちゃん、おばあちゃんも歓迎です。

◆日時: 5月12日(木) 10:00~12:00

◆日時: 6月2日(木) 10:00~12:00

◆場所: ラポールひらかた 4階共用ルーム

※連絡先 松崎 072-845-3014 さんなみ 072-868-9929

「みんなといっしょに高校へ行きたい」

「知的障害者」を普通高校へ北河内連絡会定例会ご案内

新学期が始まって1か月、子ども達は気分よく学校へ行っているでしょうか。

様々なことで、気になるなあ〜、これってどう考えたらいいの？ など、戸惑いも多い時期ではないでしょうか。

集まって、気兼ねなく出し合って、交流しながらヒントを見つけ出していきませんか。また、今年度の受験についても具体的に考えていきませんか。定例会に是非お越しください。今回は、大東市で初めて行ないます。

また、ZOOMでも参加していただけます(無料)。

ZOOMをご希望の方は、松森(matumori@crux.ocn.ne.jp)までご連絡を。

◆時: 2022年5月15日(日) 午後1時30分~5時

◆所: 大東市立市民会館3階 303会議室 駐車場有 574-0076 大東市曙町4-6 Tel: 072-871-0001

JR住道駅下車歩9分 または近鉄バス大東市役所前下車すぐ

内容: ①今年度の高校受験をめぐって情報交換

②子ども達と学校や生活上の課題

③「医療的ケア」の必要な子ども達をめぐって

④高校卒業後の進路と生活と課題

⑤その他、自由に交流します。

◆参加費: 会場費1家族につき100円

◆連絡先: 松森 090-1960-3469 関山 090-2599-6162

◆主催: 「知的障害者」を普通高校へ北河内連絡会

心理カウンセラー養成講座 ~講座体験&説明会~

対人援助やカウンセリングに必要な基礎的なスキルを学べます。

日時: 5月12日(木) 10:30~12:00

5月12日(木) 19:00~20:30

◆場所: ラポールひらかた

◆参加費: 無料

◆定員: 15名

◆申込・問合せ先: NPO法人京阪総合カウンセリング

TEL 072-814-7140

メール jim@npk-ksc.net

http://www.npo-ksc.net

「第6回とっておきの音楽祭 in ひらかた"リベンジ"」

~みんながってみんないっしょ~

仙台を発祥に障がいのあるなしに関係なく誰もが参加し楽しむことのできる音楽祭です。最後のフィナーレは全員でステージを楽しみましょう。昨年中止になって"リベンジ"と加えました。ドローン体験・熊本の物産展・"昆虫食を体験してみよう"などのブースもあります。昼休みはダンスワークショップ(マツケンサンバII)でみんなでダンス。

◆日時: 2022年5月15日(日) ①10:20~ ②11:30~

◆場所: ①ニッパーク岡東中央 ②ビオルネ正面玄関前

◆参加費: 観覧無料

◆主催: とっておきの音楽祭 in ひらかた実行委員会

TEL: 090-1597-9784

URL: http://totteoki-hirakata.com

メール: totteokino.ongakusai.hirakata.@gmail.com

◆ボランティア募集中です!

一緒に音楽祭を作り上げていきませんか?

わたしの闘病日記

「身体中で一番新しい関節に感謝」(9)

年老いた母を連れての出かけ先での脱臼の続きをお聞きください。

長いスカートを両膝に挟み左側へ足を傾け、上半身右向きの姿勢は最悪の姿勢だったのです。手術した右足を内側に45度位傾け、全体重が右股関節にかかってしまひポロリッと脱臼をしてしまったのです。

冷や汗ダラダラ、目の前の景色から色が無くなり白黒の世界になる、心臓はバクバク、喉はカラカラ。脚を放り出した姿勢から全く動けない。体重を移動させるだけで激痛!

駆けつけてくださった店員さんが「お水でもお持ちしましょうか?」と声かけてくださったものの、返事もできませんでした。頭の中で「いったい自分に何がおこっているのか?

脳梗塞? 心筋梗塞? イヤイヤ……これは脱臼?」なんせ初めての経験なのでわけわからん!!

もしかして「脱臼?」に至るまでに相当の時間がかかりました。そうとわかれば救急車を呼んでもらうしかない!

同行していた息子から119番通報してもらいました。

救急隊到着してストレッチャーに乗せてもらうのが大事です。僅かでも足が動くのと激痛で「やめて〜!!!!」と叫んでいました。救急隊3人がかりで何とかストレッチャーに乗せてもらったものの、救急車に入る時のガタガタ振動で悲鳴を上げるくらい激痛!

さあ、どこへ搬送されるのか? 一応手術した病院を伝えたものの基本は要請した市町村内で受け入れ病院を探すのだそうです。ところが運よく? 年末であったため受け入れ先がなく最終的に手術した病院が受け入れてくださいました。

しかし約30分の道のりが大変でした。救急車は多くの機材を搭載しているため車体は最小限のクッションだそうです。(救急隊からの知識)

まず道路の継ぎ目を意識されたことありますか? 普通車を運転していて感じませんか? とところが僅かな継ぎ目の振動で激痛が起こります。右折・左折の際に僅かに傾きますが、この傾きだけで激痛と悲鳴が出ます。

身体中が痛みに抵抗し緊張の中、やっと病院に到着!

ほっとしたのもつかの間、ストレッチャーの振動の悲劇が再び来ます。ストレッチャーからベッドへの移動は救急隊や看護師さんの腕をかきむしるくらい掴んで「やめて!!」と泣きわめいていました。

冬場だったので足首までのブーツを履いていたのですが、このブーツを脱がしてもらっただけでも喚き散らしていました。そっとブーツを動かしてくださるのですが、1mmでも動くのと激痛! なのです。

私が麻酔で眠っている間に患部をモニターで確認しながら元の位置に入れてくださり、麻酔から目覚めると痛くも痒くもない! 「どうぞ気を付けてお帰りください」
まだまだ脱臼は続く……

応援ありがとうございます♪

L I P 応援団

イエローシート

L I P 会計報告 (前号以降)

金額(円)	内容
48,097	前号から繰り越し
12,000	広告代
4,100	イエローシート寄付
▼500	ロッカー代
▼3,900	4月号印刷代
59,797	計(次号へ繰り越し)

STOP WAR

■L I Pは、市民が書き、市民が読む地域密着型情報紙です。あなたも紙面に登場してみませんか♪

ぷうすけの しらないせかいが いっぱい展

◆2022.5.25(水)26(木)28(土) 10:00~17:00

ぷうすけ自己紹介 哲学者のネコ(!?)

旅をして、いろんなものを見たり、聞いたり、考えたりするのが大好き。夢はハンモックに揺られながらモーニングコーヒーを飲むこと

好きな言葉は「自画自賛」苦手なものは「トムヤムクン」影響を受けた哲学者は「デカルト」と「ソクラテス」

◆2022.5.26(木)13:00~16:00

ひきこもり相談会

7年以上ひきこもりのフリーランスWEBデザイナー
ぷうすけ作者によるひきこもり相談会を開催します
(予約不要)

◆コラボレーション出展

松村良男写真展

◆運が良ければ手焙煎珈琲飲めます。

<https://pusuke-lp.com/2022koten/>

◆会場: 枚方市枚方上之町11-29 NPO法人たゆらぎ



バカッ!! 枚方コーりん

デビューしちゃう?

【ひらつーパートナー・ライト】

月額 5,610円

詳しくはコチラ➡➡



イラスト 表紙、P3: 平井由恵